

事前評価報告書

事業名: 空き家を活用して命を守りつなく場づくり

実行団体: 一般社団法人Team Norishiro

報告者: 一般社団法人Team Norishiro

資金分配団体: 公益財団法人 東近江三方よし基金

実施時期: 2021年3月～2023年2月

対象地域: 滋賀県東近江市

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

概要

事業概要

年齢、経済条件、障がい福祉制度などに関係なく、引きこもりや障がいを持つ孤立状態にある人を対象に、暮らしをベースに彼らがアクセスしやすい工夫を凝らし、空き家を活用して緊急時に駆け込み、人によって意味合いが変わる命を守る場づくりを行う。通常時は「8050問題」の対応として両親の高齢化などによる家族の分離に備えて単身生活を体験できたり、薪の生産等の休憩や面談の場として屋内でのコミュニケーションの体験ができたりと、地域で暮らすための力を育む場とする。また彼らを支える親や障がい福祉の若手が集い学べるつながりの場とする。さらに、地域の障がい福祉以外の企業や学校など多職種で働く人に、我々の活動を通して障がい福祉のことを知ってもらい、引きこもりや障がいを持つ方への理解を促進して、地域の応援団になるきっかけづくりを行う。

これらにより、働く場づくりから、空き家を活用して命を守り、人をつなく場づくりへと取組を拡張させ、彼らの命を守り、地域で働き暮らしていく力をオーダーメイドで育む。それと同時に、彼らの応援団を増やし、地域のりしろ（許容・適応力）を大きくする。

中長期アウトカム

事業終了時から10年後に事業実施によって、地域での障がい福祉部門への理解と総働が進み、引きこもりや障がいを持つ本人と親が地域とつながり、誰一人取り残さなく、誰一人自殺者を出さない地域になっている。

短期アウトカム

アウトカム[No.1]

東近江市において、引きこもりや障がいを持つ本人の命を守る体制が構築されはじめ、緊急避難所があり命を守る活動が始まっている。

アウトカム[No.2]

東近江市において、引きこもりや障がいを持つ本人が地域で暮らすための力を育む場が構築されはじめ、地域で暮らしは始めている。

アウトカム[No.3]

東近江市において、引きこもりや障がいを持つ本人を支える親や支援者する若者へのコミュニケーションサポート体制が構築されはじめ、立場に自信を持ち、仲間ができて心が話せるようになっている。

アウトカム[No.4]

東近江市において、多職種での理解が促進して、障がい福祉部門との連携体制が構築されはじめ、多職種に協力者・賛同者ができ始めている。

事業の背景

(1) 社会課題

障がい福祉制度などに関係なく、引きこもりや障がいを持つ孤立状態にある人が、緊急時に駆け込める場がない。また「8050問題」の対応として両親の高齢化などによる家族の分離に備えて単身生活の経験など地域で暮らすための力を育む場がない。また彼らを支える親や障がい福祉の若手が集い学べるつながりの場がない。さらに、地域の障がい福祉以外の企業や学校など多職種で働く人に、障がい福祉のことを知ってもらう場がない。

(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況

- 行政では、孤立者対策として生活困窮者自立支援制度、生活保護制度、障害者虐待防止法などの制度はあるが、どれも緊急の対応は困難な状況である。
- 福祉制度を利用していない引きこもりや障害を持つ方が、地域で暮らすために単身生活、働くや交流の経験を積める場がない。
- 彼らの親同士をつながりが必要と考えるが、行政主導では集まらない現状である。
- 障がい福祉制度や特性に関する研修だけで、働く意味などの学びやつながりづくりの場はない。

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部	事業実施団体代表	(一社) Team Norishiro 理事長
	事業ターゲット本人の公的支援者	東近江圏域働き・暮らし応援センターTekito- 支援センター太陽 センター長
	事業ターゲット本人の「働く」を軸にした支援者	TeamKonQ (困救) 代表
外部	インタビュー、ディスカッション調査補助	株式会社農楽 担当

評価実施概要

評価実施概要

実施日 令和3年3月10日

場所 薪遊庭

インタビュー項目

- 地域で社会的孤立者が発生する問題構造を十分に把握できているか？
 - 対象グループはどのような問題点・関心・期待・懸念を持っているか？
 - 対象グループの地域における規模を把握できているか？
 - 対象グループを地域につなぐために必要な事項を把握できているか？
 - 総働のための重要なステークホルダーは誰か？それぞれのステークホルダーは、どのような関心、期待、懸念、強み、弱みなど特徴を持っているか？
 - 対象グループ以外への波及効果はあるのか？
 - 目標達成の道筋は、地域の人的・金銭的・ノウハウ・ネットワークなど総働したものになっているか？
 - 計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策が検討されているか？
- ディスカッションの項目
- 最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができていないか？
 - 目標・アウトカムや事業設計の内容達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか？

自己評価の総括

事業実施団体、働き・暮らし応援センター、支援センター太陽、TeamKonQ (困救) の関係者へのインタビュー調査、ディスカッション調査を通して、目標、現状の課題、目標を達成するための事業の道筋の見える化と共有化が行われ、事前評価の目的は達成されたと考える。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	<p>【評価小項目】社会的孤立者の自立に向けた既存の公的制度的問題構造を十分に把握できているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>地域で社会的孤立者が発生する問題構造（福祉制度的問題構造）は、次のように整理できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的孤立者の総数が把握できていない ・現状ある公的制度やサービスまでつなげる手段がない ・生活全般にわたる困りごとの相談窓口が設置されたが、相談だけで留まり問題解決に至っていない ・地域で暮らしていく力をつけられる制度でない ・継続性がない制度である ・就業が失敗しても引きこもりに戻さないという仕掛けがない（＝セーフティネットがない） <p>【結論】</p> <p>関係者へのインタビュー調査の結果から、地域で社会的孤立者が発生する問題構造（福祉制度的問題構造）が整理できている。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	高い	<p>【評価小項目】対象グループはどのような問題点・関心・期待・懸念を持っているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>対象グループの問題点・関心・期待・懸念は、次のとおりである。</p> <p>■年齢、経済条件、障がい福祉制度などに関係なく、引きこもりや障がいを持つ本人</p> <p>■就労移行したも引きこもりや障がい者など福祉サービスを利用していない本人（問題点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスで対応できない ・同世代と比較して経験の数が少ない。 ・住居を失う、コロナ感染での隔離、虐待・DV被害などを緊急避難する場がない。 ・失業・休業、コロナの影響など不安な思いを持ち寄れる場がない。 ・家庭内暴力、親の高齢化などを回避するための単身生活を体験させる場がない。 <p>（関心・期待）</p> <p>次の状態をめざす。</p> <p>■引きこもりや障がいを持つ本人の親（問題点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親の孤立。 ・世間体から現状発信ができない。 ・子どもの状態を認めていない（認めたくない）。 ・家族内の問題と思っている。 ・健全な状態に戻るという期待。 ・家庭内暴力などひどかった時代に戻りたくない。 <p>（関心・期待）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる相談や開示でなく、次のステップなので集まりやすい。 ・親同士でフィードバックが可能。 ・親の高齢化の対策。 <p>【結論】</p> <p>関係者へのインタビュー調査の結果から、対象グループの問題点・関心・期待・懸念を把握して、整理できている。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	<p>【評価小項目】最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計ができているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>本事業の事業概要は別紙 事業概要図のとおりである。</p> <p>【結論】</p> <p>関係者のディスカッションにより、事業概要図（ロジックモデル9が的確で、望ましいアウトカムをもたらすと判断できる。</p> <p>【評価小項目】目標・アウトカムや事業設計の内容達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>本事業のアウトプット、アウトカムの指標・目標は、事業計画書のとおりである。</p> <p>【結論】</p> <p>関係者のディスカッションにより、データ収集が可能なアウトプット、アウトカムの指標・目標が設定できている。</p>
	④事業計画の妥当性	高い	<p>【評価小項目】目標達成の道筋は、地域の人的・金銭的・ノウハウ・ネットワークなど総働したのものになっているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>【人的及びノウハウ・ネットワークなどの総働】</p> <p>「特定された事業対象の妥当性 総働のための重要なステークホルダーは誰か？それぞれのステークホルダーは、どのような関心、期待、懸念、強み、弱みなど特徴を持っているか？」の評価結果と同様</p> <p>【金銭的な総働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書アクション[No.9]若者の集いと学びの場所での参加費 ・事業計画書アクション[No.10]多職種が集いと学びの場所の提供での参加費 ・視察研修の受入費 ・着火材、作業所の商品、kikitoなど地域材をつかった商品の売上 <p>【結論】</p> <p>関係者へのインタビュー調査により、目標達成のための人的・金銭的・ノウハウ・ネットワークなど総働が整理できている。</p> <p>【評価小項目】計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策が検討されているか？</p> <p>【調査計画に基づく調査の結果】</p> <p>計画の妨げとなる事象とそれを軽減するための対策は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の妨げとなる事象（課題）：周辺の理解不足 ・軽減するための対策 <p>自治会長、近隣住民への事前説明 自治会活動への参加 若者支援など理解しやすい言葉から説明を始まる</p> <p>【結論】</p> <p>関係者へのインタビュー調査より、関係者で計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策が整理・合意されている。</p>

事業計画の確認

重要性（評価の5原則）

本事業は、事業終了時から10年後に事業実施によって、「地域での障がい福祉部門への理解と総働が進み、引きこもりや障がいを持つ本人と親が地域とつながり、誰一人取り残さなく、誰一人自殺者を出さない地域になっている。」ことが目標（アウトカム）である。

事前評価においては、目標（アウトカム、アウトプット）、現状の課題、目標を達成するための事業の道筋の見える化を、関係者間（事業実施団体、働き・暮らし応援センター、支援センター太陽、TeamKonQ（因救）の主要者）で行い合意することが特に重要であり、事前評価を通して達成されたと考える。

評価においては、本事業による地域の総働を検証することが特に重要だと考え、1)地域の総働を示すサポート体制図、2)総働がわかる地域の状態の具体例、3)ターゲット層の孤立解消を測る目安となる「つながり数」を、関係者で合意して指標に設定したことは重要と考える。

今後の事業にむけて

事業実施における留意点

- 空家の整備段階から、ターゲット層も含め様々な人がかかわれる仕掛けをしていく。
- ・空家に残された備品を必要なターゲット層や福祉施設につなぐ
 - ・関係者総出による片付け
 - ・ターゲット層や連携団体と協働したDIY
 - ・自治会及び隣人への挨拶 など

--

--

--

添付資料

--